

第5学年「てつがく創造活動」学習活動案

授業者 岡田 博元

2月21日（金）1階多目的室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 活動名 なにを“てつがく”しちゃおう

2 活動について

(1) 新教科「てつがく」から「てつがく創造活動」へ

「てつがく創造活動」では、自分たちの活動のなかにある葛藤や分岐点を意識し、自分の感覚を言葉にしたり、それを意味づけたりしながら、次の参加の仕方を少しずつ変化させていくような対話の場を経験することをねらいとしている。高学年では教科担任制をとっている本校において、週1時間のてつがく対話は、その人なりの感じ方や経験を聴き合える貴重な時間でもある。そのため本学級では、創造活動とのつながりを意識しつつも、子どもたちが生活のなかで慣習的に理解していることばに立ち止まり（秘密、死と生）、そこに内包されている諸価値（信用、恥ずかしさ、否定と批判、生まれ変わり、達成と諦め、孤独等）について対話することで、日常に埋め込まれた意味を捉え直してきた。

3学期はいよいよ、創造活動とのコラボレーションを試みる。5年生の子どもたちは、自分が追求したいテーマをじっくりと考え、それをもとに30の小グループに分かれて、自分の関心にどうやって接近していくのか、“自分たちの想い”を形にする活動に取り組んできた。それぞれの葛藤を経験してきた子どもたちの2学期のふり返りからは、計画する、チャレンジする、つなげる、意見を聞く、データをまとめる、集中するなどの、その子の学びの実感を表すキーワードが抽出された。本題材は、それらの経験のなかから、多くの子が実感をもって語れるものを選ぶこととした。こうして選択されたキーワードが、「協力とチームワーク」である。

(2) 協力とチームワークと……

協力やチームワークというと、共同体として一つになることがイメージされる。しかし、この言葉が挙げられた背景には、互いに違う存在として活動に参加しながら、自分と同じよう感じて欲しいという欲求と矛盾、全体の為に個の突出を抑えるという既存の価値観などがある。子どもたちがチームワークに込めた「協働」とは、差異の共有であり、違ったもの同士が共通の目標に向かうときの姿勢を示している。ここに、感じ方の違いを聴き合う面白さがある。

さらに、(1)で子どもたちがキーワードとして挙げた言葉は、互いにつながり合っている。協力について話しながら、それは聴き合うことであり、つなげることであり、判断することでもある。隣接概念を架橋しながら、他者の感覚を確かめ、分かり方を更新していく可能性のある題材である。

3 学習活動計画（5時間目／全8時間）

- ・活動で大切だと感じた事柄を挙げ、始めの話題を選ぶ …… 1時間
- ・協力とチームワークの違いについて対話し、違いを感じたエピソードを集める …… 2時間
- ・エピソードに関わる別のキーワードを抽出し、問いを更新する …… 2時間
- ・新たな問いについて対話し、つながりや重なりを考える …… 2時間
- ・単元を振り返り、自分たちの対話を価値づける …… 1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

互いの経験を振り返って考えの重なるところと重ねられないところを意識する。

(2) 本時の展開

予想される学習活動と子どもの姿	留意点
1 対話を振り返る	・前時までを振り返り、もう少し話したいことを確認する。 ・語られたエピソードへの感じ方を話し合う。 ・ズレや重なりを感じるキーワードを意識する。 ・感じ方の違いから、次の問いへ向かう。
2 感じ方を聴き合う	
3 重なりやズレを確かめる	

□話し合いで話題にしたいこと

問いが生まれるエピソードとは？